


(別紙様式1)

# 履 歴 書

これと同じページは<http://dtn-wisdom.jp/keireki.pdf> よりダウンロードできます

研職 究種 部 門 ・	総合的研究
	教授
	マル合

## 履歴書-1

幼名	江崎 通彦えさき みちひこ			男	昭和8年 1月20日生 2015年現在 (82 歳)	
氏名	知識から知恵を創り出す方法の考案者 DTCN-WBS方法の考案者 「問題解決と課題実現のための知識から 知恵を創り出す方法」の著者					
幼名	〒502-0053 ぎふし ながらみやじまち 1-3					
現住所	岐阜市長良宮路町1-3					
自宅	058-231-9287 携帯090-3579-0406	勤務先	058-231-9287			
E-mailアドレス	esaki@dtn-wisdom.jp ホームページ <a href="http://dtn-wisdom.jp">http://dtn-wisdom.jp</a>					
年 月 日	学 歴 (高校卒業から記入)					
S26	3	31	同志社高等学校卒(京都市、岩倉)			
S30	3	31	大阪大学工学部造船工学科卒 (この間企業にて勤務:川崎重工株式会社にて航空、宇宙、バス部門の生産、資材、設計、企画、調査の実務を担当)			
H4	4	1	東京工業大学 理工学研究科 経営工学専攻 博士後期課程(社会人大学院プログラム(機械系)入学)			
H5	6	31	東京工業大学 理工学研究科 経営工学専攻 博士課程終了			
H5	6	31	博士(学術)の学位授与(東京工業大学)			
年 月 日	職 歴 (常勤・非常勤及び期間を明記)					
S30	4月	1	川崎航空機株式会社 岐阜製作所 入社 (後に川崎重工航空宇宙事業本部となる) ここに在籍の36年間、現場の促進管理、工作、生産技術、組立、飛行整備、資材、調査室、企画、設計など32箇所の異なった職務を担当し(32業務を経験下いきさつは、入社時に、航空機に関することは、すべてやってみようという希望を出したため、最初の内は8ヶ月毎に、職場を異動したためである)、そこで「知識を知恵にかえる方法」基礎となった「デザイン・ツアーの考え方とその手順」の手順を開発考案した。この手順は、実際の民間機、防衛庁中等練習機(このとき、初めて公式適用)、H-IIロケットの開発に適用、設計段階からのコストダウンと性能・機能、信頼性、整備性の向上に顕著な成果をあげることができるようにした。結果として、現在は、防衛庁開発のCX、PXプログラムにも使われている。 またこの期間の間に下記の職務を兼任した。			
H3	3マデ		川崎重冷凍パン株式会社 常務取締役			
S61/4	~9		防衛庁航空自衛隊幹部学校技術幹部コース講師(コストコントロール担当)(兼任)			
S60	S	H5	宇宙開発事業団開発員/嘱託(情報システム室)(兼任) ここでは、宇宙機器の目標コスト設計するための「NASDA-STD-4:デザイン・ツアーコスト実施標準」の作成、および情報システム開発の初期段階のオスからの脱出できる手順を創った。			
63	~	H2/3	防衛庁陸上自衛隊幹部学校技術幹部コース講師(コストコントロール担当)(兼任)			
H1	~	H2/3	東京工業大学原子炉工学研究所非常勤講師(特別第2)(兼任)			
H2	~	H5				
H3	~	H6/3				
H3	~	H5/3	以下は、川崎重工定年退職後の経歴 (財)石田財団DTCN研究室長			
H4	~	H5/3	(財)防衛技術協会参与			
H5	~	H5/3	日本能率協会コンサルティング株式会社技術アドバイザー			
H6	~	H5/3	総務庁行政管理局行政情報システム企画課研修コース講師(システムの合意形成手法担当)			
H7	~	H15/3	朝日大学 大学院 経営学研究科 情報管理学専攻 プロジェクト管理研究室 教授			
H9	~	H13	防衛庁契約本部 21世紀委員会委員			
H14	~	H13	防衛庁契約本部調査研究室コンサルタント			
H16/1	~	H17/3	朝日大学 大学院 経営学研究科 情報管理学専攻 プロジェクト管理研究室 客員教授			
0	~	H17/3	ここで、大学院生を指導し「技術屋、事務屋が共創のできる知恵を創り出す管理会計の方法」につき、博士号を与えた。 DTCNインタナショナルInc(有).代表取締役(知識から知恵を創る方法によるウイズダムマネージメント手法の普及を担当)			
H19/7	~	H21/3	有人宇宙システム株式会社、主幹			
H25/5	~	H21/3	NPO法人:DTCN知識から知恵を創り出す方法協会、理事長			
年 月 日	学 位 (修士及び博士号、授与大学名)					
H5	6	30	博士(学術)東京工業大学 大学院、理工学研究科、経営工学専攻(高原研究室) (課程博士:通常5年かかる博士前期、後期課程を1年3ヶ月で終了、社会人プログラム) <a href="#">卒業写真</a>			

様式 2  
研究業績

記入順序 1.学位(博士)又はこれに匹敵する学術論文報告等

- (類別) 2.その他主要な学術論文報告等  
3. 著書・解説書等  
4. 国際学会会議における講演・報告等  
5. 学術上の賞等  
6. その他

(論文、著書等は単著・共著の別及び共著の場合は主たる著者がそうでないか分かるようにしてください)

類別	業 績
	<p>論文名のあとに（共著）と示してあるもの以外は、全部、単著</p> <p>1. 学位(博士)又はこれに匹敵する学術論文報告等 (学位論文) ①□ 関係者の価値観あわせから入ることのできる研究・開発・具体化の方法（東京工業大学、平成5年） (学位論文に匹敵する学術論文) ① 差の情報による意思決定のメカニズムとPMD（目的手段がイテラム）手法（朝日大学経営論集、1995） ② 関係者のドメイン・オブ・シンクの抽出とそれによるコンセンサスの形成の新手法（研究開発計画学会、1993） ③ 落ちのない巨大な研究開発の計画管理をするための階層化と作業の段階的区分の構築の新手法（研究開発計画学会、1993） ④ 評価をするということはどういうことか（日本創造学会、2003） ⑤ 国家行政組織法の「能率」という言葉の「効果的、効率的」という言葉への読みかえ（計画行政学会第20回会報告、1997）</p> <p>2. その他主要な学術論文報告等(日本語の主な論文は、外国語による発表をしているので、日本語論文のみを、記述する)</p> <p>① マネージメントにおける意思決定の一手法（全国能率大会論文集、1970） ② デザイン・ツー・コストの一方（全国VE大会、1978） ③ 男性型発想と女性型発想のちがいがい（日本創造学会論文集、1983） ④ イメージの受発信と思考の順序のくせについての性差とその創造的応用について（国際イマジナリー学会、1987） ⑤ 創造的思考とベクトル合わせをするための手法（日本創造学会、1989） ⑥ 問題と課題ということばの混乱からの脱出（朝日大学経営論集、1995） ⑦ 未来型と過去型メカニズムの創出、解明をするための思考と行動における「仮説設定、検証、評価、意思決定」をするための手順と書式、1998（仮説設定、検証、評価、意思決定の思考の進め方とその内容を目で見える手順にした） ⑧ 知識を知恵にかえる方法（日本創造学会、1999）井波利彰との共著 ⑨ 新プロジェクト管理の方法（プロジェクトマネジメント学会、1999）（従来のプロジェクト管理手法の盲点を解決） ⑩ 情場の考え方とその手順、メカニズム（国際情場学会支援事業成果報告書（岐阜県）、1998） ⑪ 新CALSのための知識を知恵にかえる方法（CALS, Japan、1999） ⑫ 知識を知恵にかえる方法の基礎理論とウイズダムエンジン（日本創造学会論文誌、2002） ⑬ 問題と課題の融合（日本創造学会年次大会、2002） ⑭ 評価をするということばをいかにしきえればよいか（日本創造学会、日本経営情報学会年次大会、2002） ⑮ 知識を知恵にかえる管理会計の方法（原価計算学会年次大会、2003）河合龍憲との共著 ⑯ コンピュータとコンピュータでできない思考と行動の部分についての見解（日本創造学会年次大会、2003） ⑰ 創造技法と管理技法をつなぐ自律的な統合手法（日本創造学会論文誌2003） ⑱ 創造技法、管理技法、管理会計手法をつなぐ自律的な統合手法（知識創造支援システム・シンポジウム、2004） ⑲ 知識を知恵にかえる方法による「創造性教育の方法」と行政改革の方法への応用（知識創造支援システム・シンポジウム2006） ⑳ 問題解決型販売業務における思考技法の利用—提案営業におけるDTCN手法の応用— 共著（知識創造支援システム・シンポジウム2006）</p> <p>2. 著書・解説書等 ① <u>デザイン・ツー・コストの新しい考えかたとその手順、産業能率大学出版部、1984</u> ② 関係者の価値観あわせから入ることのできる研究・開発・具体化の新手法、財団法人日本能率協会、1995、 ③ <u>新プロジェクト管理の方法、アスキー出版、1997</u> ④ <u>Advanced Project Management Methodology with Method for changing Knowledge to Wisdom, ASI Press、Layonia, Michigan, 2002</u> ⑤ <u>課題を実現する、革命的な、もの・システムづくりの方法—知識を知恵にかえる方法—、日本資材管理協会、2008</u> ⑥ <u>Method for creating Wisdom from Knowledge : Japan Material Management Association 2009</u> ⑦ <u>PM、SEのためのWBSの再定義とその使い方（=DTCN/WBSの方法）2010</u> ⑧ <u>問題解決と課題実現のための知識から知恵を創り出す方法</u></p> <p>3. 国際会議学術会議における講演報告等 ① Steplist for reasonable price (Society of American Value Engineers, 1974, Los Angeles, Cal.) ② Method of Steplist management (Society of American Value Engineers, Detroit, Mich., 1977) ③ Method of decision making in management (International conference of Production Research, 1977, Tokyo, Japan) ④ A method of Design To Cost by steplist (Society of American Value Engineers, 1979, Washington DC) ⑤ Method of Key word (Society of American Value Engineers, 1982, Hyannis, Mass.) ⑥ Function Breakdown Structure Technique (Society of American Value Engineers, 1982, Hyannis, Mass.) ⑦ Sexual difference fact in transmitting and accepting for creation of images and its practical use (3<sup>rd</sup> imagery international conf.,1987, Fukuoka city) ⑧ <u>米国防管理大学より、招聘を受け、How to proceed Design To Cost を講演（1998）</u> ⑨ New creative design method in quality planning phase by combining QFD and DTC/DTC methodology (QFD symposium at linkoping, Sweden, 1997) ⑩ Advanced Project management methodology (The 14<sup>th</sup> international conference of production research, Osaka, Japan, 1997) ⑪ New thinking and its procedure for Design To Customers' Needs / Design To Cost (Society of American Value Engineers, 1998, Washington DC)</p> <p>4. 学術上の賞等 CAM-I (USA) Consortium for advanced manufacturing international <a href="http://www.cam-i.org/resources/">http://www.cam-i.org/resources/</a>で、Next Generation Manufacturing Systems として、評価、紹介されている。（3301 Airport Freeway, Suite 324 Bedford, Texas 76021）</p> <p>5. その他 ① 上記に示した論文成果の開発成果を生かした「DTCN/DTC(デザイン・ツー・カスタマーズ・ニーズ/ デザイン・ツー・コスト)の考え方と手順」(手法)が、防衛庁の航空機の開発をはじめ、他の新しい国防装備品システムの開発手法の重要な開発手法として、公式に使われ、成果をあげている。 ② また、宇宙開発事業団のH-IIロケットや宇宙ステーションのコスト管理、プロジェクト管理、情報システム構築等にもこの方法が使われ成果をあげている。 ③ 朝日大学大学院 情報管理学専攻において、弟子とともに、「知恵を創り出す管理会計の方法」を開発。 ④ 朝日大学を退職後、「知識を知恵にかえる方法による創造性教育の方法」を発表し、内容は当たりのことながら、創造性教育の専門家からは他に例のない提言という評価を受けている。 ⑤ 上記の2-⑥のMethod for creating Wisdom from Knowledge : Japan Material Management Association 2009については、世界で初めての、皆が無意識にやっていたが、従来、うまく説明ができていなかった、といえる「知識から知恵を創り出す方法」として評価されている。英文版の全内容は<a href="http://dtn-wisdom.jp/00001=E-wisdom%20book.pdf">http://dtn-wisdom.jp/00001=E-wisdom%20book.pdf</a> よりダウンロードできます。</p>

(別紙様式3)

学会における活動状況

1. 所属する学会 及び地位	① 日本創造学会 会員、もと理事 ② 研究・技術計画学会 正会員 ③ 米国価値工学学会 正会員 ④ 経営工学会 正会員 ⑤ 日本経営情報学会 正会員 ⑥ 原価計算学会正会員 ⑦ プロジェクトマネジメント学会会員 ⑧ PMI協会会員
2. 学会の役員・ 座長等の経験	日本創造学会評議員
3. 最近10ケ年間に 研究助成金を 受けた状況	① 平成8年度 私立大学と経常費補助金特別補助(特色のある教育システムの研究)(150万円) ② 平成9文部省科研費(研究成果公開促進費:翻訳費)「新プロジェクト管理の方法」(680万円) ③ 平成10年度朝日大学宮田奨励金:多画面表示装置による朝日大学実学PRシートプロジェクトの推進(200万円) ④ 平成11年文部省科研費(研究成果公開促進費:翻訳費)「仮説設定、検証評価、意思決定の手順」(48万円) ⑤ 平成11年度(財)ソフピアジャパン:情場サポートシステムの研究(300万円) ⑥ 平成11年度朝日大学宮田奨励金:情場サポートシステムの研究(300万円) ⑦ 平成12年文部省科研費(研究成果公開促進費:英文版出版費),著書名「Advanced Project Management Methodology with Method for changing Knowledge to Wisdom」(680万円) ⑧ 平成12年度朝日大学宮田奨励金:情場サポートシステムの研究(300万円) ⑨ 平成12年度(財)ソフピアジャパン:情場サポートシステムの研究(300万円) ⑩ 平成13年度朝日大学宮田奨励金:新プロジェクト管理の方法の英文出版前翻訳見直し助成金(120万円) ⑪ 平成13年度朝日大学宮田奨励金「地域ネットに貢献する情場サポートシステムの研究」(300万円)
4. その他	1. 上記の結果、開発した方法の最新のものに「 <a href="#">問題解決と課題実現のための知識から知恵を創り出す方法</a> 」がある。 この方法(考え方とその手順)は、世界ではじめてのものと考えられる。 これにより、現在のノーレッジ・マネジメントの世界から、それを基盤にして、その上位のウィズダム・マネジメントの世界を開くものとなる。(これがあることにより、知識がはじめて知恵になる。しかしその中に含まれているメカニズムは、従来、われわれが何気なく、やってきた思考と行動のメカニズムと同じであり、それを見えるようにして、多人数の中で、目で見ながらそのメカニズムを共同で、使えるようにしたところに、その意義がある) 2. ウィキペディアの問題解決の甲の参考文献に唯一の日本人として上記の文献とMethod for creating wisdom from knowledgeの文献が呼びだされています。 3. 平成14年末に、著書「Advanced Project Management Methodology with Method for changing Knowledge to Wisdom」の出版を機会に、フランスの専門家仲間の会合で発表し、その内容は、従来、ヨーロッパにもなかった新しい切り口の、創造思考とマネジメント思考を結びつけた経営管理、情報管理のできる「見える考え方とその手順」であるとの評価を受けている。(フランス在住の阿部剛彦氏のお世話による機会によるもの)

職域における活動状況

1. 重要な役職等の経験

川崎重工にて

- ① わが国で初めて公式に（防衛庁が）実施するデザイン・ツー・コスト事務局を担当（江崎通彦は、このデザイン・ツー・コストの方針を実際に推し進めるための「[デザイン・ツー・コストを進めるための、考え方とその手順](#)」の開発者である）
- ② 救命救急において、救命率、治癒率を向上するため、救急学会、麻酔学会の諸先生方を支援し、日本におけるヘリコプターによる救命救急システムを誰が担当し、どのように、具体化して行くかの当初のシナリオを、自治省救命救急救助室と協力して具体化した。このプロセスにおいて、救急救命士制度が誕生した。
- ③ 川重冷凍バン株式会社の常務取締役  
会社全般のマネージメント担当

宇宙開発事業団にて（川崎重工に席を置いたままの兼任作業）

嘱託または主任研究員として。

- ① デザイン・ツー・コストの実施標準（NASDA-STD-4）と関連参考書「デザイン・ツー・コストの新しい考え方とその手順」を作成し、H-IIロケットのプロジェクト管理の中で、設計が中心となって実施するコストダウンやライフサイクル・コスト設計のための仕組みとその手順を創った。この成果は、H-IIロケットのコストダウンやプロジェクトの段階的意思決定に効果があり役に立っている。
- ② 情報システム室の嘱託（川崎重工航空宇宙事業本部のデザイン・ツー・コスト担当主管との兼任）として、宇宙開発事業団の総合情報システム開発の初期のカオスからの抜け出しをするための考え方とその手順を開発して、それを解決する作業の支援をした。

（財）石田財団にて

- ① DTCN研究室長  
上記のデザイン・ツー・コストの考え方とその手順を「デザイン・ツー・カスタマーズ・ニーズの考えか多々緒その手順」発展させた。

朝日大学において

各種ソフトピアジャパンとの共同研究テーマのプロジェクトマネージャーを担当

防衛庁調達実施本部 21世紀委員会委員において、  
[21世紀における防衛調達のあり方共創的な防衛調達システムの構築の提言に参加](#)

（株）有人宇宙システム、技術主幹として

従来、PM（プロジェクト・マネージメント）とSE（システム・エンジニアリング・マネージメント）の分野で、効果的、効率的で落ちのないマネージメントをするための目的に使われてきたWBSの方法につき、その目的実現に対し、まだ不十分であった内容につき、再定義とその使い方を明確にして、世界に先駆けてその改善した結果を創りあげた。詳細は、2010出版の「[PMとSEのための、WBSの再定義とその使い方](#)」に示されている。

NPO法人：[DTCN知識から知恵を創り出す方法協会](#)の理事長として、自らが開発してきた「[問題解決と課題実現のための知識から知恵を創り出す方法](#)」、「[知恵を創り出すPMD手法](#)」および[Method for creating wisdom from knowledge, Problem solving by wisdom](#)などの普及に尽力中。

<p>2. その他</p>	<p>ソフトピアジャパンの助成金を得て実施した研究活動および共同研究（主体は朝日大学）の成果を応用して、</p> <p>① 世界ではじめての「知識を知恵にかえる方法」を開発し、地域貢献をした。</p> <p>② またそれに付随して、「評価をするということは、なにをしさえすればよいのか、何をしさえすれば十分なのか」のテーマの元に、「評価をするということはなにをしさえすればよいのか（日本創造学会、日本経営情報学会、2002）」の論文を完成、実務上の企業における開発管理、行政等に役立つようにした。</p> <p>③ さらに、朝日大学 博士後期課程の院生と、世界で初めてと考えられる「知恵を創り出す管理会計の考え方とその手順」を開発。その基礎理論と手順は平成15年度に、院生が博士号取得。</p> <p>この方法は、従来、科学系、技術系の人に非常にわかりにくかった管理会計や財務会計、財務諸表の考え方とその内容を見るとすぐわかるように、かつ今までより効果的、効率的に、幅広く理解でき、管理会計、財務会計の内容とその利用、構造の拡大の場を広げるとともに、技術系、理系の人たちと事務系の経営、財務系の人たちが同じ土俵で、一緒になり新しいことを企画、計画、実施し、目的とすることを効果的、効率的に実現できるようになるものである。</p> <p>④ 上記の研究のプロセスにおいて、プロジェクト管理、コスト管理のほか創造性を、心理学、行動科学の世界にも関連させ、従来、心理学、行動科学の専門家が、気がついていなかった基本的なメカニズムの発見や位置付けができるようになったので、実務と学問をより密接、実用的にリンクすることができるようになった。</p>
---------------	---

社会における活動状況

<p>1. 関係官庁団体等の委員会・調査会・審議会等の委員の経験</p>	<p>防衛庁 調達実施本部にて、平成9年より平成12年まで 21世紀における防衛調達のあり方につき、 有識者による調本（調達本部の略）21世紀プロジェクト委員会の委員</p> <p>現在、引き続き、上記の答申（提言）結果を具体化するため、具体的な作業のコンサルティングと奉仕を、防衛庁契約本部 調査研究室の依頼を受けて、行っている。</p> <p>この中コンサルティング内容は、IPT（Integrated Project Team：研究開発のそのまた上流から、関係者が集まり、カオスの状態から何をすればよいかの価値と課題を創出し、システムコンセプトを固めて行くチーム作業をするチーム）の考え方とそこで使う手順、手法、それを具体化していく考え方とその手順、また、それを具体化し、結果を得るプロセスで、そのシステムの効果をあげ、コストを下げるための方法であるデザイン・ツー・コストとコストダウンをどのような手順とツールで進めれば、効果、効率が上がるか、またそれぞれの段階で、どのようなコスト管理と品質管理、システム、機能能力向上の管理、促進管理をすればよいのか、についての具体的で広範囲なコンサルティング内容となっている。 更には現在の調達コストが妥当であるかどうかを評価する方法およびその前提条件、契約の方法、条件などについてもコンサルティングをしている。</p> <p>この中で、かつて小淵総理に、『国家行政組織法の第一条に示されている「国の行政事務の能率的な遂行」とあるのを、少なくとも運用上、「国の行政事務の効果的、効率的な遂行」と読みかえるべきこと』をメールによる提言をし、その後、四国の十四万川の工事見直しの時点から、行政の各方面で、その表現が、明確に使われるようになった。今回の「行政がおこなう政策の評価に関する法律」の中でも使われるようになってきている。（この件については、かつて、小淵総理よりメールによる礼状を戴いている。1999年4月12日）</p>
<p>2. その他</p>	<p>社会に対する貢献として、</p> <p>従来の問題点 日常、評価とか、効果という言葉がよく使われているが、何に対しての評価か、なにに対しての効果がよくわからないまま使われてきた。</p> <p>あらためての認識 平たく言うと、いずれも価値に対しての、評価であり、効果である。</p> <p>改善点 この価値を、関係者の目で見える形で、小生開発の集団の意思の方向（＝価値の方向）を紙の上に表すことのできるPMD（目的手段ダイアグラム）手法を使って、テーマ毎に、目で見えるようにして、地域社会や企業、行政に使えるようにした。 更にその目的な結果を、具現化する、手順を創りだす、ステップリストの方法を、考案し、それを実用化した。</p> <p>応用面 また、これらの方法を使用して、従来の創造技法、管理技法、会計管理手法を繋ぎあわせ、「見ると欲しくなる、見せると欲しくなる」顧客と供給者のインターフェースを持ったのに・システムの開発と運用ができるようにする管理フローチャートの原型を創った。</p> <p>これにより、統合的な、価値創出、もの・システムづくり、サービスシステムを創りだすことができるようになる。 以上により、従来、世界でまだできあがっていなかった「知識を知恵にかえる方法」を、世界に先駆けて創り、下記URLにより公表した（日本語、英語とも）。 <a href="http://dtn-wisdom.jp/">http://dtn-wisdom.jp/</a> 正規委員会</p>

履歴書－ 2

年	月	日	賞 罰
H4	7	5	困難な課題を実現するための新手法：デザイン・ツー・カスタマーズ・ニーズ/デザイン・ツー・コスト の考え方とその手順（財団法人 日本経営士会） <a href="#">航空機のデザイン・ツー・コストとPMD手法（防衛庁調達実施本部）</a> 研究開発功労賞（財団法人日本バリューエンジニアリング協会） 防衛庁の原価計算業務等の改善（財団法人防衛装備協会）
H9	7	15	
H9	11	19	
H9	11	26	
年	月	日	免 許 ・ 資 格
S35			航空機工場検査員（計器）（通産省）
上記のとおり相違ありません。			
平成27年 1月20日 氏名 江崎 通彦 ㊟			